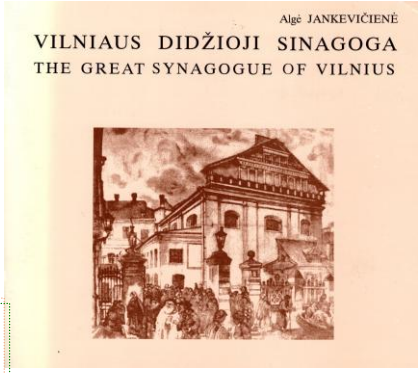
第 15 回　こんな時代にロシア語のすすめ

「リトアニアで大事件」(後編)



ヴィリニュスのユダヤ・シナゴーグのパンフレット

黒田 龍之助

2001 年 9 月 11 日、アメリカで同時多発テロ事件が起きたとき、わたしはカミさんとリトアニアに滞在していました。その日は前年にリトアニア語研修で 1 か月を過ごしたカウナスまで日帰り旅行して、夕方に首都ヴィリニュスまで戻ってみれば、テレビでは高層ビルから煙の昇る映像が流れ、しかも単なる火事ではなくテロなのだとくり返し説明されています。大変なことになったなあ、とはいえここはヨーロッパの外れ、アメリカとは相当離れていますから、直接的な心配はありません。心は痛めながらも、正に対岸の火事、まったくの他人事。ただヨーロッパ各国の空港では、アメリカ便をしばらく欠航することにしたとの報道だけは、それはそうだろうと納得していました。

しかし数十分後に入ってきた新たなニュースを聴いて、わたしたちは仰天します。

「ヨーロッパでは明日の午前中、すべての航空機の運航を見合わせることにしました」

ちょっ、ちょっと待てよ、明日はヴィリニュスからプラハへ飛ぶ予定なんだよ！

わたしとカミさんは青ざめました。飛行機が飛ばなかったら、いったいどうすればいいのでしょうか。個人で旅行するのが今ほど便利ではない時代です。飛行機を予約し直したり、ホテルを新たに見つけたりするだけでも大変なのに、世の中はテロへの警戒で騒然としています。

いったいどうなってしまうのでしょうか！！！

こういうときに焦ってはいけません。幸いなことに、明日のプラハ便は午後でした。それまでに何か対策を講じることはできないものか。自らをなんとか落ち着かせ、情報を集めようとホテルの室内にあるテレビに齧りつきます。

そのとき気がつきました。そうだ、ここはリトアニアだったのだ！

いくら 1 か月間の研修を受けたからといって、わたしのリトアニア語はニュースで情勢を判断するには程遠いものです。どれほど熱心に耳を澄ませたところで、わからないものはわかりません。さあ困りました。

しかしそこは外国人観光客がたくさん宿泊するホテルです。客室内のテレビでは、外国の放送もたくさん視聴することができました。そこで地元リトアニア以外のニュース番組に、チャンネルを合わせることにします。

頼りになるのはアメリカ CNN でした。現地からの報告は徐々に詳細になり、事件の全貌が少しずつ明らかになっていきます。こういうときは英語が助かります。やっぱり長年にわたって触れてきましたからね。なんのかんのいっても、実用的に使えるわけです。

しかし問題がありました。CNN では、いや、その他のアメリカの放送局も合わせて、ヨーロッパ情勢については、ほとんど報道してくれないのです。そりゃそうですよね、自国が大騒ぎのときに、よその国のことなんか構っていられません。わかるのですが、それではこっちが困るのです。

ヨーロッパの放送はいくつも視聴できましたが、イギリスは大陸ではないせいなのか、情報が少ない気がしました。ドイツやフランスの放送は盛んにヨーロッパへの影響を説明していますが、残念ながらドイツ語やフランス語はあまり自信がありません。なまじ断片的に聞き取れたりすると、かえって不安が募ります。

そこで他の放送はないものかと探していたら、ありました、リトアニアの隣国であるポーランドのニュース番組が流れています。実をいえばポーランド語はそれほど得意じゃないのですが、そんなことをいっている場合ではありません。かつて覚えたなけなしのポーランド語彙と文法に加え、その他のスラブ系言語の知識を総動員させて、とにかく何か情報は得られないものかと、カミさんと 2 人で全神経を耳に集中します。

情報源はどのヨーロッパ諸国も似たようなものですから、実は大差はないのでしょうが、それでも事件の全容はかなり掴めました。さらに何か違う話はないかと見ていたら、在ワルシャワのアメリカ大使が大使館前でインタビューを受けていました。その大使は非常に聴き取りやすいポーランド語を話すので、こちらも理解でき、とくにヨーロッパにおけるテロの影響についてはだいぶ明らかにました。それと同時に、アメリカ大使が緊急時にポーランド語を話すなんて、本当にすごいなあと、すっかり感心してしまいました。

いえいえ、感心している場合ではありません。いちばん知りたい飛行機の運行情報については、詳細が相変わらず未知

のままです。そこでさらなる情報を求めて、テレビチャンネルをつぎつぎ換えていくと、ありました、ロシア語でニュースを放送しています！

かつてリトアニアもソ連構成共和国でしたが、ホテルのテレビでは１局しか視聴できませんでした。しかも事件が起きたあとでもノンキなバラエティー番組なんか流していて、ぜんぜん使い物にならなかったのですが、やっとニュースの時間となりました。ロシア語なら、かなり詳しく理解できるはず。有益な情報を求めて耳を傾けます。ところが頼りのロシア語放送が、とんでもない情報を伝えていました。

「このテロ事件には日本のテロリストが関係しているとの見方があります」

おい！　そんなこと、他のニュースではひと言もいわなかったぞ！！　冗談じゃない、それじゃ明日、飛行機が無事に飛べるようになったとしても、こっちは日本のパスポートを持っているんだから、念入りに調べられて、場合によったら搭乗を拒否されるかもしれないじゃないか！！！

その晩は、よく眠れませんでした。

翌日の午前中は時間があったので、市内にあるユダヤ・シナゴーグの見学に行きました。内心は不安でいっぱいだったのですが、もう破れかぶれです。館内はとても静かでした。それだけでなく、ヴィリニュスの街はいつもと同じように落ち着いています。ホテルは予定どおりにチェックアウトしましたが、フロントもそれまでと変わりなく、にこやかに挨拶をします。日本人テロリストを見る目ではありません。よかった。しかしこの先は何が待っているかわかりませんから、油断は禁物です。

予約しておいたタクシーで、ヴィリニュスの空港には早めに着きました。到着してわかったことには、午後になって飛行機はヨーロッパ便に限り通常運航に戻ったそうで、いやはや、心の底から安堵しましたね。

落ち着いて辺りを見回せば、空港内はガランとしています。もともと便数が少なかったようですが、そこへさらにキャンセル便が出たからでしょうか、利用客も非常に少なく、その静けさは不気味なほどでした。わたしたちの乗るプラハ便は、定刻どおりと表示されています。でもまだ安心できません。出国手続きを済ませ、荷物検査を受け、搭乗口に着いてもまだ不安。飛行機が飛び立って、ヴィリニュスの街を窓から見下ろしてはじめて、わたしとカミさんは安堵のため息をつきました。

数時間後に飛行機は無事にプラハへ到着ました。ここは何度も訪れている慣れた街だし、何かあったらチェコ語を使って対処することができます。数日間滞在する間に、各国の空港も徐々に落ち着きました。

わたしたちがチェコから日本に向けて離陸する日は、アメリカに向けて飛行機が飛ぶようになった初日でした。当時はそれほど利用客の多くなかったプラハの空港で、搭乗手続きのために並ぶ行列があんなに長かったのは、後にも先にもそのときだけです。

あのとき以来、ヴィリニュスはまったく訪れていません。わたしのリトアニア語も錆びつく一方です。また行きたい気持ちもありますが、あのときの混乱を思い出すと、リトアニアに限らず、飛行機に乗るのが不安になってしまいます。世界を変えた、本当にひどい事件でした。それにしても、ロシア語ニュースの誤報はいったい何だったのでしょうか。

＜日ロ交流情報＞

大阪日ロ協会が定期総会（3 月 7 日）新理事長に五十嵐徳子さん

3 月 7 日、大阪日ロ協会の第 47 回定期総会が、大阪市内の会議室で開催されました。

総会では、25 年の活動報告・26 年の活動計画が承認されるとともに、昨年 4 月に藤本和貴夫先生が逝去され空席となっていた理事長に、五十嵐徳子さん（京都外国語大学教授）が選出されました。日ロの学術交流、文化交流に尽力された藤本先生の遺志を継ぎ、大阪日ロ協会の活動をより活発化させていきたいと、五十嵐新理事長は決意を述べました。

総会後の講演会では、ロシア・ウクライナ・旧ソ連地域の現代政治史に詳しい松里公孝先生（東京大学名誉教授・上海外国語大学特別招聘教授）が、「ウクライナ戦争の原因と現況そして『トランプ停戦交渉』の行方」と題して講演。ソ連末期の分離紛争とその停戦管理の分析から紐解いて、ロシア・ウクライナ戦争の現況と見通し、その困難点が、わかりやすく解説されました（講演録を 12 頁に掲載）。

3 月 7 日、大阪日ロ協会総会後の講演会